より良い介護サービスを目指して②

介護の現場では、さまざまな場面で腰への負担が大きくかかります。それを軽減できるようにパワーアシストスーツを導入しました。「ダウンタウン」の浜ちゃんのコマーシャルでも有名なあのスーツです。

このスーツは着る筋肉と言われ腰への負担を軽減します。最大補助力25.5kgで動作をアシスト、電気不要の省エネ、空気の力で動くため稼働時間に制限がありません。本体重量も3.8kgと軽量で10秒で装着完了、操作も簡単です。また、防水・防塵なので、入浴の介助にも活用することができます。

▲導入前の体験会

実際に排泄や入浴や移乗の介助で使用してみると、始めのうちは不自然な動きでまるでロボットのよう、慣れてくるとスムーズに動けるようになってきました。

▲移乗介助の様子

移乗介助で入居者を抱えた時には、いつもより軽く感じ、中腰の姿勢で行う、排泄や入浴の介助も以前に比べると腰への負担が減ってきました。装着して介助することで余分な力を加える必要がなく入居者も安心して体を預けてくれるためお互いに負担や不安が軽減できています。

介護業界も介護ロボットや様々な福祉用具が出てきていますが、それらをうまく活用し、職員と入居者にとって安心・安全な施設となるように工夫していきます。

サンシャイン周辺探訪

大山白山神社 奥の院の石段

大山白山神社には奥の院へ上る幅4m、長さ65mの古い石段があります。その最上部あたりの左側の縁石に次のような文字が刻まれています。

石工泉刕日根之郡
東箱作村住人
藤原嶋□權兵□□之
延享元子年

「泉刕（州）日根之郡東箱作村」は、現在の大阪府南部の阪南市の一地域です。延享元年は西暦1744年。いまから270年以上前に、泉州の石工が来て作った石段です。重機もない時代、大量の石をどこで確保し、どのようにして積み上げていったのか、興味は尽きません。

泉州では古くから和泉石（青石）が産出され、石工集団が活躍していました。ここの石工たちは石材を加工する技にすぐれていました。古墳の石棺や石室にも和泉石が使われており、「箱作村」という村名もここからきているように思われます。

江戸時代以降、泉州の石工たちは全国に出稼ぎに出るようになりました。背景には、和泉石の切り出しによって山地が荒廃したため、採掘が制限され、石材の入手が困難になったことなどが考えられます。

美濃と泉州の石工との関係は古く、「鵜沼石」の石工として知られる縣半右衛門の先祖は、明暦二（1656）年に和泉国から鵜沼村へ来て定住したといわれています。それを物語るように、いまも中濃・東濃を中心に、泉州の石工が彫った石造物が数多く残されています。

町内では、大山白山神社の石段からさかのぼること45年、元禄十二（1699）年に、切井「佐長田神社」の鳥居が、泉州の石工によって造られています。

▲大山白山神社奥の院の石段